
 学 会 記 事

 第 11 回日本東洋医学会
 関東甲信越支部新潟県部会

日 時 平成 14 年 9 月 8 日 (日)
 午前 10 時～午後 4 時 10 分
 会 場 新潟市万代市民会館
 6 階多目的ホール

I. 一 般 講 演

1 茯苓飲合半夏厚朴湯の効いた一見疾患の違う
二症例

関原 芳夫

長岡赤十字病院脳神経外科

【緒言】西洋医学的には異なる症例に同じ処方
 で効果のあった 2 症例を経験したので報告する。

〔症例 1〕53 歳, 女性. 平成 13 年 3 月, 椎骨動脈
 解離性動脈瘤にてコイル塞栓術を行い一命をくい
 止めた. しかし術後, 様々のストレスから頭重,
 不眠, めまい, 食欲低下, 易疲労感, 動悸などが続
 いた. 抗不安薬, 抗鬱薬, 眠剤などを投与するも
 効果なし. 舌診, 腹診などを参考に茯苓飲合半夏
 厚朴湯を投与したところ, 胃症状の消失と共に訴
 えも著明に軽減した.

〔症例 2〕74 歳, 男性. 平成 13 年 12 月下旬より
 頭重感, 嘔気, ふらつきが出現. 神経学的には複
 視, 小脳失調が軽度認められ, 椎骨脳底動脈循環
 不全と考えられた. 輸液と共に抗血小板剤を投与
 したが, ふらつきが取れない. 腹部症状の訴えか
 らヒントを得, 舌証, 腹証を参考に茯苓飲合半夏
 厚朴湯を投与した. 再来時には全ての症状が消失
 した.

2 乳児期アトピー性皮膚炎に対する黄耆建中湯
の使用経験

橋本 謹也

こども医院はしもと

【緒言】最近食物アレルギーを基にもつ乳児期
 アトピー性皮膚炎を経験することが多い. 今回,
 私は消化器機能を立て直すとされる小建中湯に,
 皮膚の水滯の正常化と排膿作用があるとされる黄
 耆が加わった黄耆建中湯を使い, 湿潤な湿疹が主
 体で食物アレルギーの関与することが多い乳児期
 アトピー性皮膚炎への投与効果を検討した.

【対象】平成 13 年 1 月より平成 14 年 6 月まで
 に当院を受診し, 黄耆建中湯を処方した 28 例
 (男児 17 名, 女児 11 名) について検討した.

【結果】投与した 28 例中, 効果あり 18 例, 効果
 なし 4 例, 悪化 2 例, 判定不能 4 例であった. 効
 果あり 18 例中 8 例はステロイド軟膏を使用しな
 いで改善し, 使用例も割りと少量の使用で改善し
 た. 又, 皮疹の改善は湿潤やびらん面により顕著
 のように思えた.

【考察】黄耆建中湯は乳児期アトピー性皮膚炎
 に有用な処方と考えられた. (悪化入院例もあり
 含めて報告する.)

3 鍼通電治療, 漢方薬の併用で改善をみた肩凝
り, 円形脱毛症の一例

高畑與四夫

たかはた医院

症例は 40 歳, 女性. 身長 165.5cm, 体重
 103.7Kg (+72.2%)

【主訴】両肩凝り, 後頭痛, (脱毛症)

【現病歴】15 年前 (25 歳) より肩凝り, 頭痛を
 自覚していたが時々マッサージを受ける程度あっ
 た. 脱毛はこの頃より始まり皮膚科を何度か受診
 し治療を受けたが, 効果はみられずあきらめ治療
 は受けなくなる.

この頃より体重増加となり, 最高 120Kg にな
 った. 平成 12 年 10 月出産した. 子供を背負うも
 10 分もすると肩凝りが悪化して, 姉の勧めで当院
 を受診した.

【現症】高度の肥満体以外特に理学的所見に異常認めず、頭部は全体に薄く特に後頭部に目立つ円形脱毛症と認められた。二便正常、陽実症と診断。

【経過】両肩と後頭部に鍼治療し葛根湯エキスを7.5g×14日投与。再診より柴胡加竜骨牡蛎湯7.5gを追加して鍼治療と併用した。葛根湯を6週間、柴胡加竜骨牡蛎湯4週間分を以後中止。鍼治療のみ1-2週間隔で受診している。3ヵ月目頃から脱毛が少なくなり6ヵ月目にはほぼ正常となった。

【考察】肩凝りの自覚症状が急速に改善し、鍼の刺激が頭皮血流改善に作用し毛根部を活性化させたと思われる。漢方薬の併用が症状変化にどの程度寄与したかは今後の検討を要する。

4 牛車腎気丸が多愁訴に著効を示した高齢患者の一例

荒木 進

荒木内科医院

症例は90歳、女性。

【既往歴】慢性関節リウマチ(RA)と高血圧、胃潰瘍などでT病院よりザンタック、ペルジピン、ラシックスを投薬中。

【主訴】背部痛、腰痛、便秘、両下肢の浮腫としびれ、食欲不振

【現病歴】約6カ月前より大便で這ってトイレに行く以外はベッド上で寝たきり状態。RAによる両手指関節の変形あり、やせ形、精神状態(記憶力など)は高齢の割りに良好。BP 140/80。両足は浮腫状で冷たく、足背動脈も触れない。両足をベッド下に下げると2-3分でチアノーゼ(暗赤色)となる。

【東洋医学的所見】腹部は全体に軟弱だが圧痛なし。舌は紅で苔(-)、裂紋(+)。脈は沈、細、弱。

【経過】H13年9月8日初回往診。東洋医学的に腎虚、瘀血、水毒状態と判断し牛車腎気丸を投与。他にラニザック(H2Bloker)、ラジストミンL(降圧剤)、ルプラック(利尿剤)も併用。1ヵ

月後には両足の浮腫、背部痛、腰痛、便秘がほぼ消失し食欲もでて、著効を示した。

5 補中益気湯にて自力食事摂取可能となった一症例

中田 真司・小林 豊

ゆきぐに大和総合病院和漢診療科

症例は82歳、女性。

【現病歴】鬱病、高血圧、脳塞栓後遺症にて近医通院中。平成12年転倒を契機に寝たきりとなった。平成14年4月5日嘔吐後の発熱を主訴に誤嚥性肺炎の診断で当科第一回入院。

【経過】上部消化管内視鏡検査では逆流性食道炎を認めた。入院時より、発語も少なく、自力座位保持が不能。全介助にて嚥下食とプロトンポンプ阻害薬を開始したが、咀嚼行為に対して易疲労性で、食欲もなく、拒否的だった。間欠的に発熱と低酸素血症を繰り返したため、黄耆建中湯を試みたが無効。

5月14日誤嚥性肺炎の再燃にて入院。補中益気湯を投与したところ、自力座位可能となり、食事を自力で摂取するようになった。発語も多くなり、発熱はその後認めない。

【結語】補中益気湯にて精神神経活動の改善がみられるとともに、自力食事摂取可能となり、補剤を考える上で興味深い症例と考えられた。

6 華岡青洲の里を訪れて

高畑与四夫

たかはた医院

【緒言】今から198年前、漢方薬による全身麻酔を開発し乳癌手術に成功した医師が紀州の田舎にいた。平成11年春、当時の春林軒塾が現在の町の人々が中心となり復元された。演者は寄付の要請に賛同。その後完成を知る。昨年その地を訪れることが出来て医師としての業績の実際を知ることができた。青洲の手術は想像以上に広範、多数あり一部を報告する。

【方法】和歌山県立医科大学名誉教授上山英明